

官報

號外 昭和二十一年十月四日

○第九十回

貴族院議事速記錄第三十八號

昭和二十一年十月三日(木曜日)午前十時八分開議

議事日程 第三十八號
昭和二十一年十月三日

第一 請願委員長報告
第二 林業會法案（政府提出，衆議院送付）

第三 商工協同組合法案（政府提出、衆議院送付）

○議長（公爵徳川家正君）昨二日伊藤
豊次君、貴族院令第一條第六號ニ依リ
貴族院議員ニ任せラマシタ、就キマ
シテハ部屬ヲ第四部ニ定メマシタ

〔參照〕 從三位勳三等 岩田 宙造君
去月三十日願ニ依リ貴族院議員ヲ免セ
ラル 同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提
出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ
衆議院ニ通知セリ
復興金融金庫法案
同日委員會ニ於テ當選シタル正副委員
長ノ氏名左ノ如シ

官報號外 昭和二十二年十月四日

貴族院議事速記錄第三十八號

部屬編入ノ件

議長ノ報告 會議 委員ノ補聞

請願委員長報告

林業會法案 第一讀會ノ續

四八九

第三種郵便物送可

右可決スヘキモノナカリト議決セリ依テ及報告候也

委員長 子爵北條 勲
貴族院議長公爵徳川家正殿

月十三日ニ第五號同二十一日ニ第六號、十月二日ニ第七號ヲ提出致シマシタ、請願書ノ受理件數ハ六十八件、其ノ請願連署人數ハ一萬三百七十二名デ

ゴザイマス、右ノ請願六十八件ト、第一回報告、禁ニ申ニヤシマ内ニ^ニ請願

貴族院議長公爵德川家正殿

月十三日ニ第五號同二十日ニ第六號、十月二日ニ第七號ヲ提出致シマシタ、請願書ノ受理件數ハ六十八件、其ノ請願連署人數ハ一萬三百七十二名デゴザイマス、右ノ請願六十八件ト、第一回報告ノ際ニ申上ゲマシタ内デ請願書表ニ未掲載ノモノ四件、トヲ合セマシテ都合七十二件ヲ文書表ニ掲載致シマシタ、以上七十二件ノ請願ト、前回御報告ノ際未審査ニナツテ居リマシタ請願ニ付キマシテ、慎重審査ノ結果、議院ノ會議ニ付スベシトスルモノ六十二件、議院ノ會議ニ付スルヲ要セズトスルモノ一件ト云フコトニ相成リマシタ、詳細ニ付キマシテハ速記錄ノ上テ御報告ト第一回報告トノ累計ヲ申上テ、就テ御了承願ヒタイト思ヒマス、以上ノ御報告ト第一回報告トノ累計ヲ申上テ、女神スト、委員會ノ開會數ハ八回、分科會ノ開會數ハ十七回、即チ第一分科會ガ四回、第二分科會ガ四回、第三分科會ガ七回、第四分科會ガ二回ト云フコトニ相成リマス、請願文書表掲載件數ハ八十六件、請願連署人數ハ一萬一千二百三十六名、請願文書表掲載件數ハ八十六件デゴザイマシテ、未掲載ノモノハ二件モゴザイマセヌ、審査ノ結果ハ、議院ノ會議ニ付スベシトスルモノ六十五件、議院ノ會議ニ付スルヲ要セズトスルモノ一件デゴザイマス、以上ハ昭和二十一年十月二日迄ノ御報告デゴザイマス、是テ御報告ヲ終リマス

右可決スヘキモノナリト認決セリ依テ及報告候也
昭和二十一年十月二日
貴族院議長公爵徳川家正殿
○子爵北條雋八君 委員長 子爵北條 雋八
〔子爵北條雋八君登壇〕
シタ林業會法案ノ特別委員會ニ於ケル審議ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマヌ、委員會ハ九月三十日審議ニ入りマシテ、同日及ビ十月一日、二日ノ三回ニ瓦リマシテ開會致シ、慎重審議ノ結果原案通り可決スベキモノナリト決定致シマシタ、本法案ノ骨子ハ、森林所有者ノ團體デアリマスル森林組合ト、木材業者其ノ他林產關係業者ノ團體デアリマスル林產組合トヲ以テ林業會ヲ組織致シマシテ、此ノ自立的系統團體ノ自治的活動ニ依リマシテ森林ノ維持造成、林產物ノ生產確保、及ビ配給ノ滴正ヲ圖ルコトニアリマス、而シテ森林組合ニ付キマシテハ、現行森林法ニノ規定ガゴザイマスノデ、本案ノ内容ト致シマシテハ、主トシテ林業會及ビ林產組合ノ組織ニ關スル規定ガ大部分ヲ占メテ居ルノデゴザイマス、尙本案ハ衆議院ニ於キマシテ左ノ三點ニ付テ修正セラレタモノデゴザイマス、即チ第一點ハ、第一條中木材ノ次ニ「薪炭」ノ二字ヲ加ヘマシテ、「林產物とは、木材、薪炭その他森林から産出する物で、主務大臣の指定するものをいふ。」トシタノデアリマシテ、第二點ハ、第九十九条ノ第二項ト致シマシテ、「日本林業會は、前項の規定により承繼した債務について、その承繼に因つて得た財産の限度において、その辨濟の責に任ずる。」ヲ加ヘ、負債ノ義務迄引繼ガヌ

ヤウニ致シタノデゴザイマス、第三點ハ、第九十八條ト致シマシテ、森林法ノ一部ヲ改正スル條文ヲ加ヘタノデアリマス、即ち森林組合ニモ林業組合ト同様ニ林産物ノ需給ニ關スル自治統制ノ事業ヲ行ハセルコトヲ明カニシタモノデゴザイマス、次ニ委員會ニ於キマシテ各委員カラ極メ熱心ナル御質問及ビ意見ノ開陳ガアリ、政府當局ヨリモ具體的ノ答辯ガゴザイマシタガ、詳細ハ速記録ヲ御覽願フコト致シマシテ、茲デハ質疑應答ノ主ナルモノニ付テ簡単に御紹介致シマス、先づ一委員ヨリ、將來ニ於ケル木材需給ノ見透シニ付テ質問ガゴザイマシタ、之ニ對シマシテ政府當局ヨリ、今後ノ見透シハ憂慮すべき状況デ、昭和十九年迄ハ一千億石ノ生産デアリマシテ、大體ノ需要ヲ充シ得マシタガ、二十年度ハ六千五百萬石程度ニ止マリマシタ、本年度ハ七千五百萬石目標トシテ生産ニ努力致シテ居リマスガ、八月迄ノ生産實績ハ上半期ノ生産計畫ニ對シマシテノ六割程度ニアリマシテ、此ノ状況デハ本年度ノ計畫達成ハ容易デナク、政府ト致シマシテハ極力増産ニ努力致シテ居リマス、今後ハ本法ニ依ル組織ヲ十分活用致シマシテ、自主的ニ生産增强ヲ圖リタイト思ツテ居リマス、又需要ニ付テハ、本年度ハ七千二百萬石ヲ計畫シテ居リマスガ、八月迄ノ配給實績ハ生産實績ト同様ニ上半期配給計畫ニ對シマシテ約六割程度ニアリマス、勿論外材ノ輸入ニ付テモ考へテ居リマステ、本年末迄ニ百五十萬石、來年中ニハ約二千萬石ヲ需請シテ居リマシテ、是ガ實現スレバ需給ノ均衡ガ取れルトノ答辯ガゴザイマシタ、次ニ一委員ヨリ、森林組合ノ發達助長ニ付テノ質問

組合ト同じ範圍ノモノデアリ、生産者側ノ森林組合ト、販賣業者側ノ林産組合トヲ、合トヲ二本建ニシテ、木材ノ増産フ圖謀コトハ無理デハナイカ、又森林組合ヲモレット強化育成シテ、植林カラ林木繁茂物ノ加工販賣迄ヲ一貫的ニヤラセルヤニスベキデアルト思フガドウカ、又實際的ニハ、森林組合ガ林產組合ヲサレルト思ハレルガ、森林組合ノ強化ヲ如何ニシテ行フカト云フ問ニ對シマシテ、政府當局ハ、森林組合ノミニ一元化スルコトハ到底出來ナイト思フ、ハ、理想トシテハ誠ニ望マシイコトダガ、シテ初メテ森林ノ維持造成及ビ林產物ノ生產確保、配給ノ適正ヲ圖リ得ルノ森林組合ト林產組合トガ互ヒニ相協力シテ初メテ森林ノ維持造成及ビ林產物ノ生產確保、配給ノ適正ヲ圖リ得ルノト期待シテ居ルノデ、森林組合ガ林木繁茂ノ合理な價格ヲ定メタラドウカ、又材價格ハ數萬ノ規格ニ分レテ價格ガアリ、即チ立木ノ價格ハ現在公定價格デアル所旨ノ答辯ガゴザイマシタ、次ニ數人ノ委員カラ、價格ニ付テ質問ガアリ、即チ立木ノ價格カラ逆算シテ決定シテ居ルガ、場所ニ依ツテハ立木所有者ハ採伐レズ、逆ニ損失ニナルコトモ少クナシ、且タ跡地ニ植林ガ出來ル程度ノ合理的な價格ヲ定メタラドウカ、又木定セレテ居リ、全ク常識テ判断ノ付カナイヤウナ複雜サデアリ、現實ニ即應シナイコトガアルカラ、之ヲ簡便ニ合理化シテ決メタラドウカトノ質問ガ

對シマシテ、政府ハ立木ノ公定價格ヲ
定メルコトハ困難デアルガハ再造林費
ヲ與ヘルコトハ必要ト考ヘテ居ル、現
在ノ價格ガ必ズシモ適切デナイコトモ
能ク承知シテ居ルノデ、現在根本的ニ
検討中デアル、又規格モ基準的ナモノ
ニ付テハ之ヲ定メ、簡易ニ分リ易イヤ
ウニスルベク研究中デアル、尙價格ノ
決定ニハ、民間ノ意見ヲ尊重シ、十分
取り入レテ行ク積リテアルトノ管辯ガ
ゴザイマシタ、次ニ同ジク數人ノ委員
カラ、戰時中ノ濫伐跡地ニ對スル造林
ノ計畫ニ付キマシテ、其ノ具體的ナ内
容ヨ質サレマシタガ、當局ハ造林ノ急
ヲ要スルコトハ十分承知シテ居リ、本
年度以降五箇年間ニ二百七十二萬町歩
ヲ造林スル計畫デアリ、内本年度ハ四
十七萬町歩ヲ完遂シタイト考ヘテ居
ル、更ニ今後豫算ノ許ス限り民間ノ造
林ヲ助成致シテ參リタイ、尙民有林ノ
官行造林ニ付テモ目下研究中デ、其ノ
他造林ニ必要ナ種ヤ苗木ノ確保ニ付テ
モ失業者ヲ相當數使用致シマシテ、之
ニ充當シテ行キタイト云フ答辯ガゴザ
イマシタ、尙此ノ他燃料ノ問題、砂防
ノ問題、民有林施設案促進ノ問題等、
種々重要な質疑應答ガアリマシタガ、
詳細ハ速記録ヲ御覽顧フコトト致シマ
シテ、省略サセテ戴キマス、斯クシテ
質疑ヲ終リ討論に入リマシタ處、先ゾ
一委員ヨリ、賛成ノ意見並ニ次ノ三點
ニ付キマシテ希望ヲ述べラレマシタ、
即チ一ハ、林產物ノ規格、價格ノ統制
ニ付テハ、林業ニ經驗ヲ有スル民間人
及び需要者代表ノ意見ニ依ルコト、二
ハ、造林ノ促進ヲ圖ル爲森林所有者ノ
立木ノ價格ヲ公定スルコト、三ハ、日
本林業會ノ資產ノ繼承ニ當リ其ノ評價
ハ公正ヨ期スルコト、又一委員ヨリ同

ジク賛成ノ意見ガアリマシテ、次ノ希望
ガ述ベラレマシタ、即チ本案ハ暫定的
情ハ了承スルガ、今後更ニ検討ノ上恒
久的デ且根本的ナ立法ヲセラレタイ、
又從來ノ木材統制ノ弊害ガ再び起ラナ
イヤウニ十分民主的自主的ナ運用ニ萬
全ヲ期セラレタイ、最後ニ二委員ヨ
リ、次ノ六點ニ付テ運用上ノ希望ヲ附
シ贊成ノ意見ガ述ベラレマシタ、其ノ
第一ニ、森林組合ト林産組合ノ事業ヲ
明確ニ區分セラレタイコト、第二ニ、
林產物ノ價格特ニ立木ノ價格ニ付デ
ハ、適正ナ原價計算ヲ行ヒ、是ト市場
價格トノ兩方ヲ考ヘテ、價格ノ公正ヲ
期スルコト、第三ニ、木材ノ規格ヲ實
際ニ適合スルヤウ極力合理化スルコ
ト、第四ニ、森林組合ノ育成指導ヲ更
ニ強化スルコト、第五ニ、造林計畫ノ
實施ニ當ツテハ良質ノ種苗ノ配付ニ努
メルコト、第六ニ、薪炭ノ生産事業ハ
成ルベク速カニ森林組合ノ事業トシテ
行ハセルヤウ指導セラレタイコト等が
述べラレマシタ、以上テ討論ヲ終リ、
採決ノ結果、全會一致、原案通り可決
モナケレバ、本案ノ採決ヲ致シマス、
簡単ナガラ御報告ヲ終リマス
○議長(公爵徳川家正君) 別ニ御發言
モナケレバ、本案ノ採決ヲ致シマス、
本案ノ第二讀會ヲ開クコドニ御異議ゴ
ザイマセヌカ
ト認メマス
○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第
二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
○子爵梅園鷹彦君 賛成
○議長(公爵徳川家正君) 西大路子爵
○勅諭ニ御異議ゴザイマセヌカ

○議長(公爵徳川家正君) 本案ノ第二
讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ、
全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委
員長ノ報告通りデ、御異議ゴザイマセ
ヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナイ
ト認メマス

○子爵西大道吉光君 直チニ本案ノ第
三讀會ヲ開カレムコトヲ、希望致シ
マス

○子爵梅園鶯彦君 賛成

○議長(公爵徳川家正君) 西大道子爵
ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナイ
ト認メマス

○議長(公爵徳川家正君) 本案ノ第三、
讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會
ノ決議通りデ、御異議ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナイ
ト認メマス

商工協同組合法案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依
テ及報候也

昭和二十一年十月二日

〔男爵肝付兼英君登壇〕

○ 男爵肝付兼英君 只今上程セラレマ
シタ商工協同組合法案ノ委員會ノ審議
ノ模様ヲ御報告申上ダマス、本委員會
ハ九月三十日、十月一日、十月二日
ト、三日間ニ亘リマシテ開催致シマシ
タ、先ダ商工大臣ヨリ本案ノ提案ノ理
由並ニ法案ノ内容ニ付テ相當詳細ナ御
説明ガゴザイマシタガ、此ノ點ハ省略
ヲサセテ戴キマス、續イテ質疑ニ入リマ
シテ、慎重ナル審議ノ結果、本案ハ原案
通り可決スペキモノト決定致シマシタ、
尙本案ハ衆議院ニ於テ修正セラレタ簡
所ガゴザイマス、即チ第三十一條ニ於
キマシテ、其ノ第三項ニ「特別の理由
があるときは、理事のうち二人以内
を限り、前項に該當しない者のうちか
ら、これを選任することができる。」

トノ項目ガ追加致サレマシタ、本委員
會ニ於キマシテハ、此ノ衆議院ノ修正
案ヲ原案トシテ取扱ツタノデゴザイマ
ス、御手許ニ配付サレテ居リマスル原
金融ハ今後如何ニシテ行フ所存デア
ルカト云フ質問ニ對シマシテハ、從
来ハ組合金融及ビ一般市中銀行等ニ
依ツテ行ハレ居タソデアリマス
ガ、今後ハ復興金融金庫ヲ中心トシ
テ運營シテ參リタイト考ヘテ居ルト
云フ答辯ガゴザイマシタ、又共同施設
ハ組合員ニ利用サセルノ眼目カ、或
ハ組合ガ主體トナツテ販賣、保管等ヲ
スルノが目的デアルカ、共同市場モ
共同施設ノ中ニ含マレルノデアルカ
ト云フ質問ニ對シマシテハ、共同施設
ハ組合員ノ利用ヲ第一トシテ考ヘテ居
マシテハ、協同組合ハ現行ノ施設組合
イト思ヒマス、先ダ商工協同組合ノ性
格ハ、公法人ナリヤト云フ質問ニ對シ
マシテハ、協同組合ハ現行ノ施設組合
ト同様ニ私法人ニアッテ、民法上ノ
公益法人、營利法人ノ孰ニモ屬シナ
イ中間法人デアルト云フ答辯ガゴザイ
マシタ、次ニ商工協同組合ト商工會議
所、臨時物資需給調整法ニ依ル指定產
業團體、產業復興團體トノ關聯如何ト
云フ質問ニ對シマシテハ、商工會議所
ハ、其ノ所在地特有ノ經濟界ノ輿論ヲ
反映スル意見ノ代表機關デアリマス

ガ、若シ中小企業者ガ商工會議所ニ入
リタイ時ニハ、財政的ニモ、個人トシ
テ加入スルヨリモ團體トシテ加入スル
方ガ便宜デアルト云フ場合ニハ、協同
組合トシテ之ニ加入スルコトガ出來ル
ノデアリマス、又協同組合ハ、本來經
濟事業ヲ營ムモノニアリマスガ、偶々
其ノ團體ガ物資ノ割當等ノ統制業務ニ
適シタ狀態ニアル時ハ、臨時物資需給
調整法ニ依ツテ指定組合ニナルコトガ
出來ルノデアリマス、又產業復興團體
ハ、產業設備營團ノ設備ヲ受繼ギマシ
テ、又新シク設備ヲ擴張スル企業ニ融
資シ、中小商業ニ設備ヲ造ツテ貸與
スル役割ヲ爲スモノニアルト云フ答辯
ガゴザイマシタ、次ニ中小商業ノ
金融ハ今後如何ニシテ行フ所存デア
ルカト云フ質問ニ對シマシテハ、從
来ハ組合金融及ビ一般市中銀行等ニ
依ツテ行ハレ居タソデアリマス
ガ、今後ハ復興金融金庫ヲ中心トシ
テ運營シテ參リタイト考ヘテ居ルト
云フ答辯ガゴザイマシタ、又共同施設
ハ組合員ニ利用サセルノ眼目カ、或
ハ組合ガ主體トナツテ販賣、保管等ヲ
スルノが目的デアルカ、共同市場モ
共同施設ノ中ニ含マレルノデアルカ
ト云フ質問ニ對シマシテハ、共同施設
ハ組合員ノ利用ヲ第一トシテ考ヘテ居
マシテハ、協同組合ハ現行ノ施設組合
イト思ヒマス、先ダ商工協同組合ノ性
格ハ、公法人ナリヤト云フ質問ニ對シ
マシテハ、協同組合ハ現行ノ施設組合
ト同様ニ私法人ニアッテ、民法上ノ
公益法人、營利法人ノ孰ニモ屬シナ
イ中間法人デアルト云フ答辯ガゴザイ
マシタ、次ニ商工協同組合ト商工會議
所、臨時物資需給調整法ニ依ル指定產
業團體、產業復興團體トノ關聯如何ト
云フ質問ニ對シマシテハ、商工會議所
ハ、其ノ所在地特有ノ經濟界ノ輿論ヲ
反映スル意見ノ代表機關デアリマス

ガ、若シ中小企業者ガ商工會議所ニ入
リタイ時ニハ、財政的ニモ、個人トシ
テモ宜シシ、上下縱橫關聯性ガア
レバ、工業者ガ商業者ノ組合ニ入ツ
ノデアリマス、又協同組合ハ、本來經
濟事業ヲ營ムモノニアリマスガ、偶々
其ノ團體ガ物資ノ割當等ノ統制業務ニ
適シタ狀態ニアル時ハ、臨時物資需給
調整法ニ依ツテ指定組合ニナルコトガ
出來ルノデアリマス、又產業復興團體
ハ、產業設備營團ノ設備ヲ受繼ギマシ
テ、又新シク設備ヲ擴張スル企業ニ融
資シ、中小商業ニ設備ヲ造ツテ貸與
スル役割ヲ爲スモノニアルト云フ答辯
ガゴザイマシタ、次ニ中小商業ノ
金融ハ今後如何ニシテ行フ所存デア
ルカト云フ質問ニ對シマシテハ、從
来ハ組合金融及ビ一般市中銀行等ニ
依ツテ行ハレ居タソデアリマス
ガ、今後ハ復興金融金庫ヲ中心トシ
テ運營シテ參リタイト考ヘテ居ルト
云フ答辯ガゴザイマシタ、又共同施設
ハ組合員ニ利用サセルノ眼目カ、或
ハ組合ガ主體トナツテ販賣、保管等ヲ
スルノが目的デアルカ、共同市場モ
共同施設ノ中ニ含マレルノデアルカ
ト云フ質問ニ對シマシテハ、共同施設
ハ組合員ノ利用ヲ第一トシテ考ヘテ居
マシテハ、協同組合ハ現行ノ施設組合
イト思ヒマス、先ダ商工協同組合ノ性
格ハ、公法人ナリヤト云フ質問ニ對シ
マシテハ、協同組合ハ現行ノ施設組合
ト同様ニ私法人ニアッテ、民法上ノ
公益法人、營利法人ノ孰ニモ屬シナ
イ中間法人デアルト云フ答辯ガゴザイ
マシタ、次ニ商工協同組合ト商工會議
所、臨時物資需給調整法ニ依ル指定產
業團體、產業復興團體トノ關聯如何ト
云フ質問ニ對シマシテハ、商工會議所
ハ、其ノ所在地特有ノ經濟界ノ輿論ヲ
反映スル意見ノ代表機關デアリマス

ガ、若シ中小企業者ガ商工會議所ニ入
リタイ時ニハ、財政的ニモ、個人トシ
テモ宜シシ、上下縱橫關聯性ガア
レバ、工業者ガ商業者ノ組合ニ入ツ
ノデアリマス、又協同組合ハ、本來經
濟事業ヲ營ムモノニアリマスガ、偶々
其ノ團體ガ物資ノ割當等ノ統制業務ニ
適シタ狀態ニアル時ハ、臨時物資需給
調整法ニ依ツテ指定組合ニナルコトガ
出來ルノデアリマス、又產業復興團體
ハ、產業設備營團ノ設備ヲ受繼ギマシ
テ、又新シク設備ヲ擴張スル企業ニ融
資シ、中小商業ニ設備ヲ造ツテ貸與
スル役割ヲ爲スモノニアルト云フ答辯
ガゴザイマシタ、次ニ中小商業ノ
金融ハ今後如何ニシテ行フ所存デア
ルカト云フ質問ニ對シマシテハ、從
来ハ組合金融及ビ一般市中銀行等ニ
依ツテ行ハレ居タソデアリマス
ガ、今後ハ復興金融金庫ヲ中心トシ
テ運營シテ參リタイト考ヘテ居ルト
云フ答辯ガゴザイマシタ、又共同施設
ハ組合員ニ利用サセルノ眼目カ、或
ハ組合ガ主體トナツテ販賣、保管等ヲ
スルノが目的デアルカ、共同市場モ
共同施設ノ中ニ含マレルノデアルカ
ト云フ質問ニ對シマシテハ、共同施設
ハ組合員ノ利用ヲ第一トシテ考ヘテ居
マシテハ、協同組合ハ現行ノ施設組合
イト思ヒマス、先ダ商工協同組合ノ性
格ハ、公法人ナリヤト云フ質問ニ對シ
マシテハ、協同組合ハ現行ノ施設組合
ト同様ニ私法人ニアッテ、民法上ノ
公益法人、營利法人ノ孰ニモ屬シナ
イ中間法人デアルト云フ答辯ガゴザイ
マシテハ、次ニ商工協同組合ト商工會議
所、臨時物資需給調整法ニ依ル指定產
業團體、產業復興團體トノ關聯如何ト
云フ質問ニ對シマシテハ、商工會議所
ハ、其ノ所在地特有ノ經濟界ノ輿論ヲ
反映スル意見ノ代表機關デアリマス

ガ、若シ中小企業者ガ商工會議所ニ入
リタイ時ニハ、財政的ニモ、個人トシ
テモ宜シシ、上下縱橫關聯性ガア
レバ、工業者ガ商業者ノ組合ニ入ツ
ノデアリマス、又協同組合ハ、本來經
濟事業ヲ營ムモノニアリマスガ、偶々
其ノ團體ガ物資ノ割當等ノ統制業務ニ
適シタ狀態ニアル時ハ、臨時物資需給
調整法ニ依ツテ指定組合ニナルコトガ
出來ルノデアリマス、又產業復興團體
ハ、產業設備營團ノ設備ヲ受繼ギマシ
テ、又新シク設備ヲ擴張スル企業ニ融
資シ、中小商業ニ設備ヲ造ツテ貸與
スル役割ヲ爲スモノニアルト云フ答辯
ガゴザイマシタ、次ニ中小商業ノ
金融ハ今後如何ニシテ行フ所存デア
ルカト云フ質問ニ對シマシテハ、從
来ハ組合金融及ビ一般市中銀行等ニ
依ツテ行ハレ居タソデアリマス
ガ、今後ハ復興金融金庫ヲ中心トシ
テ運營シテ參リタイト考ヘテ居ルト
云フ答辯ガゴザイマシタ、又共同施設
ハ組合員ニ利用サセルノ眼目カ、或
ハ組合ガ主體トナツテ販賣、保管等ヲ
スルノが目的デアルカ、共同市場モ
共同施設ノ中ニ含マレルノデアルカ
ト云フ質問ニ對シマシテハ、共同施設
ハ組合員ノ利用ヲ第一トシテ考ヘテ居
マシテハ、協同組合ハ現行ノ施設組合
イト思ヒマス、先ダ商工協同組合ノ性
格ハ、公法人ナリヤト云フ質問ニ對シ
マシテハ、協同組合ハ現行ノ施設組合
ト同様ニ私法人ニアッテ、民法上ノ
公益法人、營利法人ノ孰ニモ屬シナ
イ中間法人デアルト云フ答辯ガゴザイ
マシテハ、次ニ商工協同組合ト商工會議
所、臨時物資需給調整法ニ依ル指定產
業團體、產業復興團體トノ關聯如何ト
云フ質問ニ對シマシテハ、商工會議所
ハ、其ノ所在地特有ノ經濟界ノ輿論ヲ
反映スル意見ノ代表機關デアリマス

ヒマスルガ、併シナガラ此ノ計畫ニ計畫ニ依リマスレバ、三年後ニハ少クトモ營業ニ盛デアリマシタ時ノ日本ノ織維工業ニ對シテハ及ビモ付カナイコトデハゴザイマスルガ、併シナガラ我々ガ想像シテ居ツタ以上ナ復興ヲ計畫スルコトガ出來マシテ、之ニ對シマシテハ、原棉ノ輸入、資材ノ獲得、或ハ燃料ノ獲得ト云フヤウナ點ニ最善ノ努力ヲ拂フコトニ依リマシテ、將來ノ我國ノ織維工業ト云フモノハ相當ナ活況ヲ呈シ得ルト云フ見込ガ付イテ參ツタ云フコトハ、誠ニ「アメリカ」ノ我國ニ對スル特異ノ存在ト云フコトヲ了解シテ異レタ結果アルコトアツテ、此ノ點ハ大イニ感謝ヲセネバナラムト云フ

意味ノ御答辯ガゴザイマシタ、其ノ他ノ條文ノ細目ニ付キマシテモ、熱心ナ質疑應答ガ交サレタノデアリマスルガ、詳細ハ速記録ニ於テ御承知ヲ願フコトニ致シタイト思ヒマス、斯クシテ討論ニ入りマシタガ、一委員ヨリ、本法案ハ誠ニ進歩的ナ法案デアツテ時宜ニ適シタモノデ、全面的ニ賛成スルガ、對象ガ主トシテ中小商工業者ナル關係上、政府ニ於テモ特ニ本法案ノ趣旨徹底ニ努力致サレルト共ニ、今後ノ指導育成ニ付萬全ヲ期セラレムコトヲ切望スル旨ノ御發言ガアリマシタ、又他ノ一委員ヨリハ、本法案ニ依ル組合ノ共同施設ノ運營ニ付アハ、非民主的ナ、獨善的運營ニ走シテ組合員以外ノ者ヲ不當ニ壓迫スルヤウナコトノナイヤウニ、政府ニ於テ適當ナル指導措置ヲ執ラレタイトノ希望ヲ述べテ本案ニ賛成スル旨ノ御發言ガゴザイマシタ、次イデ採決ニ入りマシタ、全員一致本法案ハ原案通り可決スベキモノナリト決定致シマシタ、以上簡單デハゴザイマスル

ガ、御報告申上ゲマス
○議長(公爵徳川家正君) 別ニ御答言モナケレバ、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

ハ是ニテ散會致シマス
午前十時四十六分散會

第一彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日

○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直子ニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵梅園鶴彦君 賛成
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家正君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナイト認メマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家正君) 本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ、全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通り御異議ゴザイマセヌカ

○議長(公爵徳川家正君) 直子ニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマスト認メマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直子ニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵梅園鶴彦君 賛成
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家正君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通り御異議ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナイト認メマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家正君) 御異議ナイト認メマス、次會ノ議事日程ハ決定次